

# ペットの災害対策

～自分の命とペットを守るために～

ちょうどいいが

いちばんいい

nagaizumi

# 1 指針・ガイドラインができた背景

## 2 事前の準備～災害に備える～ ・飼い主が行っておくべきこと

## 3 災害が起きてしまったら ・災害発生直後 ・避難所でのペットの管理方法

## 4 自助・共助・公助

ちょうどいいが いちばんいい  
nagaizumi

# 指針・ガイドライン



## 指針

# ガイドラインができた背景①

- **東日本大震災**からペットに関する教訓を踏まえ、静岡県は平成27年3月、飼い主とペットの同行避難や発生への備え、各避難所へのペット飼育場所の確保等について示した「**災害時における愛玩動物対策行動指針**」が策定される。

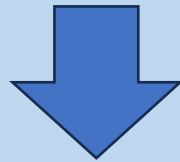


しかし…

## 指針

# ガイドラインができた背景②

- その後、平成28年4月に発生した**熊本地震**において、同様の指針は策定されていたが、避難所における被災動物対策が関係者に十分周知されていなかったため、有効に活用されていなかった。



そのため…

## 指針

# ガイドラインができた背景③

## 【ケース1：車中泊の場合】

飼い主は車中泊を強いられ、エコノミークラス症候群などを発症し、体調を崩した。

## 【ケース2：避難所】

避難所でペット飼育場所や飼育ルールが決められていなかったため、飼い主と共に避難生活を送ったが、後に鳴き声や臭いを原因としたトラブルが発生した。



# 長泉町 避難所（指定・一時避難所を含む）

1	長泉町立長泉小学校	5	長泉町立北中学校
2	長泉町立北小学校	6	知徳高校
3	長泉町立南小学校	7	南部地区センター （ペット受入れ不可）
4	長泉町立長泉中学校	8	いずみの郷 （ペット受入れ不可）

## 指針

# 長泉町のガイドライン（地域防災計画）

- 避難所の体育館、校舎内には、ペットの持ち込みは、衛生管理上禁止とする。
- グラウンドについても、犬など家で飼うことのできる人はできる限り自宅で飼うよう依頼する。

※**身体障害者補助犬**は、

よろしくお願いします

飼い主との同居になります。



## 指針

# ペットの同行避難について

- 災害時には、何よりも人命が優先されるが、近年、ペットは家族の一員であるという意識が一般的になりつつあることから、ペットと同行避難することは、動物愛護の観点のみならず、飼い主である被災者の心のケアの観点からも重要である。

# なぜ避難所で同居できないの？

## 衛生面

- ペットによっては、ダニやノミを付着させている可能性があるため、人の様々な健康上の悪影響を及ぼす可能性がある。
- 犬や猫の体毛等がアレルギー等の体調に影響を与える。

## 鳴き声

- 犬は集団になると同調して吠える習性がある。鳴き声は避難者にとって大きなストレスになる。
- ペットには夜行性のものもあり、夜中に活動する音が騒音となる。

# 大切なこと

- ▶ ペットの存在は、飼い主にとっては日常的なものであっても、他者にとっては多大なストレスになるケースがあることを考慮して行動すること。
- ▶ 自らの価値観のみにとらわれず、お互い譲り合い、謙虚な気持ちで協力し合うことが大切。

# 事前の準備

## ～災害に備える～

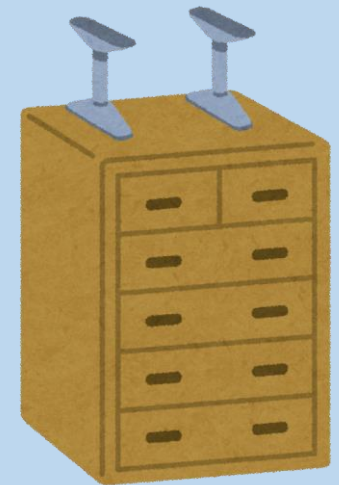


事前に

飼い主が行っておくべきこと①

## 【住居の防災対策】

- 災害時にペットを守るためには、まず飼い主が無事であることが重要。そのためには、住宅の耐震化、家具の固定や転倒防止措置等の地震対策を行う必要がある。
- ペットが普段いる場所や飼育ケージの上部や周辺にも配慮する。



事前に

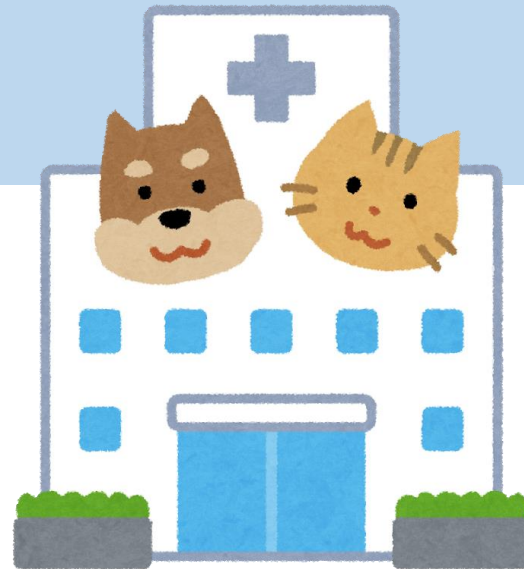
飼い主が行っておくべきこと②

## 【健康管理】

日頃からペットの健康管理には注意し、感染症予防ワクチンの定期的な接種や外部寄生虫の駆除を行うことで、ペットの健康、衛生状態を確保しておく。



- また、他の動物と接触する機会もあるため、万が一の不必要な繁殖を防止するため、不妊・去勢を実施しておく。
- かかりつけの動物病院とあらかじめ相談確認しておきたい。



事前に

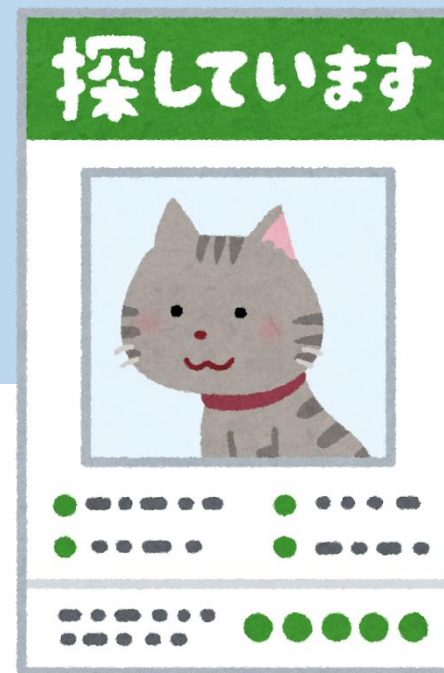
飼い主が行っておくべきこと③

## 【避難用品および備蓄品の準備】

- ペットフード・水（少なくとも5日分、できれば7日分以上）、処方薬（療法食含む）、予備の首輪等必要な物資の備蓄を行い、保管しておく。



- もしも、離れ離れになってしまったときのために、飼い主とペットの写真（携帯電話に画像を保存）しておくことも必要である。
- ワクチン接種状況やかかりつけの動物病院等の情報もあるとよい。



事前に

飼い主が行っておくべきこと④

## 【防災訓練に参加】

実際に家族でペットを連れて避難所に行く訓練を行い、所要時間、ガラスの破損や看板落下等といった避難をチェックしておくことで、より安全に避難できるようにしておく。



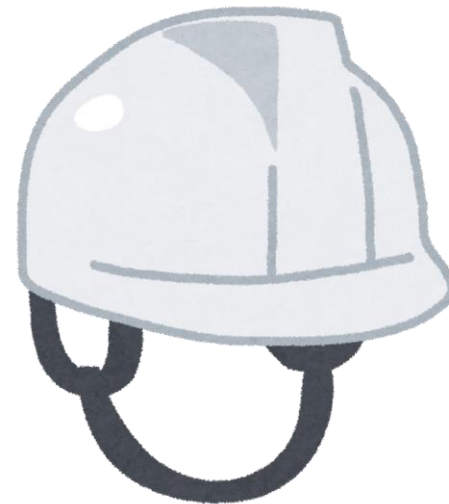
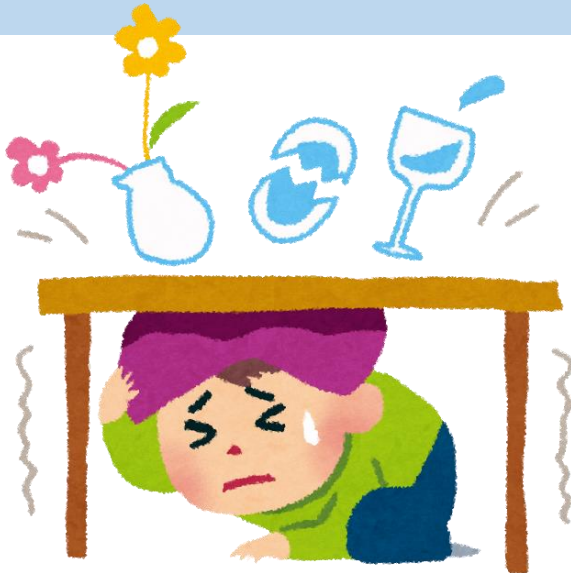
# 災害が起きてしまったら



発生直後

## 飼い主自身の安全の確保

- **災害が発生したときは、まず自分の身の安全が第一である。** 災害時にペットを守るためには、飼い主が無事であることが絶対条件である。



## 発生直後

# ペットを落ち着かせる

- 突然の災害では、**ペットもパニック**になり、興奮状態になるため、不用意に手を出して咬まれる等、思わぬ怪我をしないようにする。
- また、飼い主が動転しているとペットにも伝わるので、まずは飼い主が落ち着いて、普段通りの言葉をかける等、ペットを落ち着かせるように努める。

## 避難所

# 避難所入所の受付について

- **ペットより先に**、飼い主の避難所入所の手続きを行います。
- その後、ペットの受付を案内されます。
- その際、ペットは必要に応じ、人と離れた場所にけい留等をしておきます。



## 避難所

# ペットの受け入れ可否について

- 原則、**犬・猫・小動物**（うさぎ、鳥など）です。
- 大型の動物などや危険な動物など、専用の飼育設備が必要な動物は、
  - ① 可能であれば自宅の敷地内の安全な場所で飼育。
  - ② 信頼のおける知人に預ける。
  - ③ 動物飼育専門家（動物取扱業者等）に預ける。

## ※大型の動物例

- A) 秋田犬、紀州犬、土佐犬、ジャーマン・シェパード、ドーベルマン、グレート・デーン、セント・バーナード、アメリカン・スタッフォードシャー・テリア、アメリカン・ピット・ブル・テリア・ボクサーなど。
- B) 上記以外で、体高60cm以上かつ体長70cm以上
- C) 県市町が指定した犬（個体または種）

# 避難所

## ペットの受付について

- ペット飼育者台帳に記載します。

ペット飼育者台帳				
飼い主	氏名			
	住所	市	町	—
ペット名前				
携帯番号	-	-		
受付月日	平成	年	月	日
ペット	動物の種類	品種	毛色	性別
				オス・メス
	ケージ(檻)	リード	犬の登録	狂犬病予防接種
	有・無	有・無	有・無	済・未
備考 (本部記入欄)	特徴			
	世帯 NO:			



【参考】読売新聞オンライン  
ペットと同行避難する訓練の様子  
(2016年11月、東京都三鷹市で)

## 避難所

# ペット飼育スペースについて

- 避難所には、ペットが苦手な方やアレルギーをお持ちの方も避難してこられます。
- また、ペットの鳴き声や臭いはトラブルの原因になります。
- そのため衛生面、騒音問題から体育館からある程度離れた場所に設置されます。

※避難者とペットの棲み分けと動線分離



## 避難所

# ペットの管理方法について①

- ケージ（檻）に入れ、又はリードでつなぎ、校庭等のペット飼育スペースにて飼い主の責任により飼育します。
- 飼育及び飼育スペースの清掃は、飼い主が全責任をもって管理します。
- 屋外の指定された場所で排泄させ、後始末をします。



## 【運営・協力】

- 飼い主同士が協力してペットを管理します。
- 必要に応じて、飼い主の中から代表者を選出します（飼い主の会発足）。
- ペット飼育スペースにおける詳細なルールの決定、避難所での周知を行います。

## 避難所

# 他の避難者への周知

- ペットが飼育されていることを他の避難者に周知します。

### 〇〇避難所の皆様へ

飼い主の責任のもと、以下の場所でペットを飼育しています。

命あるものとして、共に災害を乗り越えられるよう、皆様のご理解とご協力をお願いします。

自助 · 共助 · 公助

## 自助

- 「自分の命は自分で守る」という意味で防災の基本。
- ペットの安全確保や飼育も自助が原則。

## 共助

- 企業、地域の集まりなどのコミュニティのメンバーが共に助け合うこと。

## 公助

- 行政機関などの公的機関が援助すること。公助が開始されるまでは自助や共助が主体になる。

# 災害時は飼い主による「自助」が基本

- 災害への対応には、「**自助**」「**共助**」「**公助**」があり、何よりも「**自助**」次いで「**共助**」が基本だとされている。
- このことは、ペットの飼い主にとっても同じである。ペットの安全と健康を守り、他者に迷惑をかけることなく、ペットを適正に飼育管理していく責務を負っている。

# 防災力の向上へ

- 飼い主がペットの防災を考え、十分な備えをすることは、自分自身や家族についても災害を備えることにつながり、「**自助**」によるペットの災害対策を講じることが、自分自身や家族、さらには地域の防災力の向上にもつながる。

